

前略 ■で、WS学習の解決編？ ■WSには様々に書く欄があります。この欄に子どもが書く時、書きたいと思うこと、書いて良かったと思うこと、もっと書きたいと思うこと、その指導が必要なわけです。 ■作文の教式。書く前の指導で、先生の言葉「おもしろそうだね。是非読みたいね。」という言葉、これが大事です。書いた後の指導で、ケチをつけない。これが大事です。だからこそ子ども達が、自分から書き始める。そういうことなら自分にもある、それなら自分にも書ける、次はこう書こう、という気持ちになるのです。知っている漢字も使うようになるのです。 ■WS学習はスキルを高めます。逆にそれがもとで、成果主義に陥ってしまいやすいのです。成果を求めるあまり、子どもの学習意欲がなおざりにされ、学力は高いが意欲が低いと。 ●学習意欲の低いところに、何の生涯教育でしょう。勉強への義務感だけが身についた人が、生涯にわたって伸び続ける人、学習し続ける人、自己の成長を楽しむ人に育つのでしょうか。大きな疑問です。 ■30年前、時のいずみ会会長山本忠壮先生は、現代教育の諸課題は全て教式で解決すると仰られていました。まさにその通りだと思えます。 ■そして芦田先生のお言葉「共に育ちましょう」。なんて素敵なお言葉でしょうね。

ミミナグサ 春の花第1号。(2月28日撮影)。



2015.2.28 教式短信 14